

私見創見 Thursday

このプロジェクトは八戸圏域の隠れた資源を探し出し、子どもの創作活動の材料として活用する取り組みである。芸術文化活動による魅力発信につなげることで、子どもの

感性や可能性を最大限に引き出し、アートを通じた創造的な表現の一助となることを目的とした。活動を通して、身の回りに多くの学びの材料があふれていることに気づく力、それらを主体的に発見する力、伝える力、表現する力が身につけていく教育的効果が期待できた。

この活動を行ってきたことになった、イタリアの乳幼児教育「レッジョ・エミリア」アプローチを紹介する。未就学児に特化した教育であり、ピアッツァ(広場)やアトリエ、キッチンなどを備えた心地よい空間で自由に「プロジェクト(探索活動)をさせる。教師たちはその様子をドキュメンテーション(記録化)し、報告会議で「ベタゴジスタ」(教育専門員)や「アトリエリス

昨年の10月から、1年間をかけて『八戸マテリアル・アプローチ』とも、あそび、あくと』というテーマで「みちのく・ふるさと貢献基金」の助成を受け、活動してきた。

多くの学びの材料があふれていることに気づく力、それらを主体的に発見する力、伝える力、表現する力が身につけていく教育的効果が期待できた。

八戸マテリアル・アプローチ

伊の乳幼児教育に学ぶ



佐貫 巧

八戸学院大 短期大学部准教授

さぬき・たくみ 1982年、静岡県生まれ。多摩美大卒、東京芸大大学院修了。2013年から現職。14年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイズ」を主宰し、アートを通して少しでも生きやすい世の中をつくる活動をしている。おいらせ町在住。

タ(芸術専門員)、保護者の意見を取り入れてプロジェクトを展開させるのが特徴だ。1991年、米国の週刊誌「ニユースウィーク」により、幼児教育における国際的なロールモデルとして挙げられた。

米グーグルの社員が利用で

98年から「子どもたちの100の言葉」展が世界各国で開催されるようになり、教育者からの関心も高く、世界中から研修に訪れ、教育方法が観光につながり、まちづくりの核となっている。私の周りの幼児教育関係者からの注目度も高く、実際に現地研修に赴き大いに刺激を受けている。

レッジョ・エミリアは、イタリアの北部エミリア・ロマーニャ州のボローニャ駅から急行列車で40分の場所にある人口約17万人の中規模都市である。イタリアといえば、歴史ある観光地や美術、サッカーやファッション等が思い浮かぶが、とりわけ豊かな食文化は特筆すべきものだ。レッジョ・エミリア市では、バルミジャーノ・レッジャーノ・チーズやバルサミコ酢、ワインも有名である。

これら地場産業の60%が個人経営で、家族みんなが従事している。また、教育の充実や発展を支えているのがファッションブランドのマックス・マラーダ。世界各国に店舗を持ちながら家族経営を保ち「マラモッティ財団」を設立し、利益の一部を乳幼児教育に寄付することで社会に貢献している。レッジョ・エミリア市の地場産業は、子どもたちのために世代間交流の重要性を掲げ、実践している。そして、教育を支える重要な施設の一つに「レミタ」と呼ばれる創造的リサイクルセンターがある。①サステイナビリティー(持続可能な社会

ける預かり保育にも、レッジョ・エミリア教育が取り入れられるようになり、教育者からの関心も高く、世界中から研修に訪れ、教育方法が観光につながり、まちづくりの核となっている。私の周りの幼児教育関係者からの注目度も高く、実際に現地研修に赴き大いに刺激を受けている。

不要品や廃材に素晴らしい価値を与え、「コミュニケーションと創造性を豊かにする文化的プロジェクト」と位置づけられている。この働きは、近隣のボローニャやフィレンツェにも広がり、創造性に満ちた循環型の活動が子どもの創造性と想像性を豊かにし、持続可能な教育を作り上げて

いる。